

◆ 平成 24 年度（後期）県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等による FD 活動（教育改善）計画一覧

実子主体	コーディネーター	日時	実施場所	実施内容
人間文化学部 国際文化学科	学科長 ワーキング委員 高等教育推進部 門委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月第 3 火曜日 定例会議</li> <li>ファシリテーションを中心とするグループワークの研修は講師の都合の関係から、11 月～12 月が中心となる。</li> </ul>	学科教員会議による。	<p><b>テーマ</b> カリキュラムに関する見直し、入試に関する見直しの継続</p> <p><b>実施目的</b> ○カリキュラムの内容検討、見直しを継続する。 ○平成 27 年度以降の入学試験について、文部科学省の指示に照らして科目や配点を見直す。 ○ファシリテーションを中心とするグループワークの研修。</p> <p><b>実施内容</b> (3つ以内のキーワード：人材養成カリキュラム、ファシリテーション)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国際文化学科が求める「国際理解」「文化研究」「コミュニケーション」を支柱とする新カリキュラムの在り方を考える。</li> <li>入試の科目、配点の検討。</li> <li>学科内 FD として申請採択されたファシリテーションを中心とするグループワークの研修を進める。</li> </ol>
人間文化学部 健康科学科	栢下 淳 中瀬古 哲	<ul style="list-style-type: none"> <li>原則毎月第 2 火曜（学科会議終了後）</li> <li>事例等の実態に応じ、必要が生じた場合は、専門家の招聘し学習会を実施する。</li> </ul>	会議室等	<p><b>テーマ</b> 実験系学科における「教育の質保障」と「SNE(Special Educational Needs)」の統一</p> <p><b>実施目的</b> 近年、社会的コミュニケーションに何らかの課題を有する学生の増加に伴い、高等教育機関においても、その教学システムの特質に応じて SNE への適切な対応システムを模索・構築することが求められている。特に、集団活動を前提とした実験・実習（学外を含む）が教学システムの中核である実験系の本学科においてはその対応は緊急の課題である。そのための基礎的知見を蓄積・共有することが平成 24 年度 FD 活動の目的である。</p> <p><b>実施内容</b> (3つ以内のキーワード：SNE 学生相談室 連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎月一回、授業における SNE に関する情報を、交流・共有・記録する。</li> <li>事例等の実態に応じ、必要が生じた場合は、専門家を招聘し学習会を実施する。</li> </ul>
経営情報学部 経営学科	平野 実	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的に、各ゼミ単位で勉強会を開催するが、学習の進展状況等に即して、各ゼミ指導教員を中心に、随時会合を持つ予定。</li> </ul>	研究室、演習室、 学生の自宅学習等	<p><b>テーマ</b> 日経テスト、TOEIC 等を用いたグローバルマネジメント人材育成への取組</p> <p><b>実施目的</b> 日経テストは、経営・経済の仕組みや流れを深く理解して、新しいビジネスを生み出す能力である経営・経済知力を競うものである。経営・経済知力は、これからのビジネスリーダーを目指す人材に求められる必須の能力で、近年、企業、大学等の参加が増えてきている。経営学科では、日経テストや TOEIC を活用し、経営学科学生の経営・経済知力の向上を目指すとともに、経済・企業のグローバル化に対応し、地域産業を担う「グローバルマネジメント人材の育成」を目的とする。</p> <p><b>実施内容</b> (3つ以内のキーワード：日経テスト、経営・経済知力、グローバルマネジメント人材)</p> <p>経営学科の 4 つのゼミ（西脇ゼミ、栗島ゼミ、村上ゼミ、平野ゼミ）を中心に、6 月と 10 月に実施される日経テストの受験、2 月に実施される TOEIC 試験を一つの目標に、各ゼミで勉強会を開催する。また、学生の自主的、自律的な学習への取組みを促進するため、学生を中心とする日経テスト対策のサブゼミやスマートフォンを使用した学習等も実施する予定。</p>
生命環境学部 環境科学科	奥 尚	実施日時は未定	5107 演習室 (予定)	<p><b>テーマ</b> 学生指導上の問題についての情報共有</p> <p><b>実施目的</b> 近年は学生が多様化し、学生指導における教員の負担やストレスが問題となっている。しかし、このような問題は個人情報を含むことから、教員が一人で抱え込むケースが多く、問題解決の障害となっている。そこで、各教員が持っている情報を共有し、問題を解決するためのヒントを探ることが目的である。</p> <p><b>実施内容</b> 各教員がこれまで経験して来た学生指導上の問題について、成功例や失敗例あるいは反省点について、個人情報の保護に十分に配慮しながら自由に意見交換する場を設ける。</p>

実子主体	コーディネーター	日時	実施場所	実施内容
保健福祉学部 看護学科	山中 道代	I 12月25～27日のいずれか1日（現在講師と調整中） II 平成25年2月頃 1泊2日～2泊3日	I 保健福祉学部 地域連携センター（4102） 予定 II おきなわクリニカルシミュレーションセンター（沖縄県中頭郡西原町字上原 207番地）	<p><b>テーマ</b> 学生の学びを引き出す技法を身につけるための取り組み</p> <p><b>I 看護学科 FD 研修会</b></p> <p><b>実施目的</b> 現在の大学教育はユニバーサル化しており、過去の教育方法を改善するべき段階にある。そこで看護学科では、教育能力向上に向けた取り組みとして、学びを引き出す技法を身につけることを目標に継続的に活動している。これは、今後必要になると予測されるシミュレーション教育を行う際に重要な技術である。昨年度看護学科で「教員のためのファシリテーション」というテーマで研修会を行い好評であったため、今年度も、同様のテーマでさらにステップアップした内容での実施を計画している。</p> <p><b>実施内容</b> （3つ以内のキーワード：ファシリテーション、グループワーク）            講義・演習を併せて3時間程度の研修会を計画している。具体的な実施内容については、今後講師（九州大学院総合新領域学府客員准教授 加留部貴行先生）と打ち合わせを行う。）</p> <p><b>II おきなわクリニカルシミュレーションセンター研修</b></p> <p><b>実施目的</b> ユニバーサル化した教育の中で、教育効果を高めるためにはシミュレーション教育を行う事が必須のものになる。医療系学生および医療者を対象としたシミュレーション教育のプログラム開発・実践・研究を行い、シミュレーション教育の普及をめざし実践している施設を見学し、シミュレーション教育について理解を深める。</p> <p><b>実施内容</b> （3つ以内のキーワード：シミュレーション、指導方法）            おきなわクリニカルシミュレーションセンターは、看護教育の中でシミュレーション教育を具体的に取り込んでいる阿部幸恵先生が所属している。阿部先生に依頼し、看護実践の中でのシミュレーション教育の実際の場面の見学をさせていただく予定である（交渉済み）。その他、自分たちが作成したシミュレーションのシナリオについての助言を頂く。今後は、継続的な協力を依頼し、本学のシミュレーション教育スキルアップにつなげていきたいと考える。</p>
	松森 直美	講演会：11月～3月の期間で現在調整中。 調査用紙を月1回の検討会で検討する。	三原キャンパス	<p><b>テーマ</b> 看護学科教育課程の継続評価と将来構想に関する検討，講演会</p> <p><b>実施目的</b> 看護基礎教育における現状の課題と対策について、臨床と教育現場の両方の視点から情報収集や意見交換を行うことで、看護学科の教育課程の評価や将来構想の参考とすることを目的とする。看護基礎教育の課題と対策に関する内容について理解を深めることは、看護学科の教育課題の解決や教育内容に活用することにつながり、指導力の向上を図ることができる。</p> <p><b>実施内容</b> （3つ以内のキーワード：看護基礎教育，教育課程，将来構想）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「看護基礎教育の課題と対策～新人看護職員に求められるもの～（仮）」をテーマに、看護教育に精通した講師(交渉中)による講演会を行う。</li> <li>2) 在校生に対する意識調査            方法：看護学科の教育課程に関する質問紙調査の実施            対象：看護学科在校生(1～4年生・編入生)245名            調査内容：大学生活の充実度，講義・実習科目の満足度および改善点            看護学科の教育方法，指導体制，入学制度，卒業教育に関する意見            日程の概要：9月～12月調査用紙作成 12～2月調査実施 2～3月結果の分析・考察・まとめ</li> </ol>

実子主体	コーディネーター	日時	実施場所	実施内容
保健福祉学部 理学療法学科	大塚 彰	学科会議時の討議・検討は 毎週水曜日・1時限目 勉強会としては月 1 回第 2 水曜日・1時限目	2406 会議室	<b>実施目的</b> 学生の学内および学外（臨床実習）での学習を支援する。また、学科教員の教育方法論に関する知識・技術を深める。 <b>実施内容</b> （3つ以内のキーワード：学習支援，臨床実習，教育方法） ① 臨床実習中の学生の学習支援および学内での学習の進行に問題を抱える学生の支援についての対応を討議する。 ② 主として教育方法に関わる勉強会を実施する。
保健福祉学部 作業療法学科	土田 玲子	平成 25 年 3 月 27 日（水） 11 時 30 分～12 時	三原キャンパス 2416	<b>テーマ</b> 発達障害を持つ学生の大学にける支援システムについて <b>実施目的</b> 近年発達障害の理解が深まり，発達障害を持つ学生の大学における支援システムの構築が必要との認識が大学関係者の中でも広がりつつある。既に取り組みを始めている先進大学での実践を学ぶことで，本大学におけるシステム作りの一助としたい。 <b>実施内容</b> （3つ以内のキーワード：発達障害，大学支援，支援システム） 講師：古山千佳子 発達障害を持つ大学生の困り感の実態をまとめ，先進大学の取り組みについて紹介する。
保健福祉学部 コミュニケーション障害 学科	城本 修	1. 随時（月 1 回程度）実施する予定。 2. 平成 25 年 3 月に模擬患者と本学教員による検討会議を開催。 3. 実習報告会（11 月 16 日）において学生からの報告会の開催と実習訪問による聞き取り結果を共有し，今後の実習教育に役立てる。	1309 講習室 4511 大学院セミナー室 4102 地域連携センターなど	<b>実施目的</b> コミュニケーション障害学科教員間での情報の共有化を進め，学生支援の一層の充実をはかるとともに，模擬患者を通して更に実習教育の充実を図る。 <b>実施内容</b> （3つ以内のキーワード：学生支援，模擬患者による臨床教育の充実，臨床教育に対する外部意見の検討） 1. 学生指導および支援に関する情報を学科内教員間で共有化するための「学生会議」を開催する。 2. 模擬患者による臨床教育の充実を図るために，模擬患者担当者との教育内容の検討。 3. 実習指導者会議や実習訪問などの機会を通じて，学外臨床実習施設の指導者から，“外から見た”本学科の臨床教育に関する意見・助言を得る。 ※ 実習終了後に学生が記入し提出する学外実習アンケートを回覧し，その結果を関係教員で共有する。
保健福祉学部 人間福祉学科	細羽 竜也	①実習教育事業：社会福祉士実習教育部会及び精神保健福祉士実習教育部会が月 1 回以上で不定期開催 ②ボランティア教育事業：平成 25 年 3 月に精神障害者およびその関係者と学生・地域との交流会 ③教育評価事業：月 1 回の学科会議時に開催	三原キャンパス	<b>テーマ</b> 学科 FD の取り組みの体系化に向けての準備作業 <b>実施目的</b> 今年後期には，前期に引き続き，①社会福祉士・精神保健福祉士養成に向けた実習教育に関する検討事業や，②地域の障害者との交流会を中心としたボランティア教育を推進する予定である。また，③福祉士養成科目に関する教育評価事業の準備作業を継続して行うことにする。この教育評価事業は，本学の FD 活動促進事業として予算措置を受けている。 <b>実施内容</b> （3つ以内のキーワード：実習教育事業，ボランティア教育事業，教育評価事業）